

政治・経済

第1問 問2

抽象的概念を具体的事例で考察する問題で、各学力層で差がついた

問2 日本国憲法第92条は「地方公共団体の組織及び運営に関する事項は、地方自治の本旨に基いて、法律でこれを定める」と定めており、ここでいう「地方自治の本旨」は、住民自治と団体自治という二つの趣旨を持つと考えられる。それぞれの趣旨に基づく事例を示した次の表中のX・Yにあてはまる下の記述ア～ウの組合せとして最も適当なものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

2

	事例
住民自治	X
団体自治	Y

- ア A市は、汚染物質の排出について国の基準よりもきびしい規制を盛り込んだ条例を制定した。
- イ B市は、統合型リゾート（IR）の建設に関するパブリックコメントを実施した。
- ウ C市は、ホテルや旅館などの宿泊客から徴収する新たな租税の導入を決定した。

- ① X-ア Y-イ・ウ
- ② X-イ Y-ア・ウ
- ③ X-ウ Y-ア・イ
- ④ X-ア・イ Y-ウ
- ⑤ X-ア・ウ Y-イ
- ⑥ X-イ・ウ Y-ア

第1問 問2

正解率	48.2%
SS60～65	73.2%
SS55～60	61.4%
SS50～55	52.0%
SS45～50	43.3%
～SS45	27.7%

 2021年度第3回ベネッセ・駿台
 大学入学共通テスト模試
 「政治・経済」

受験者数:	30,418人
平均点:	47.4点
標準偏差:	16.2

政治・経済

第1問 問2

抽象的概念を具体的事例で考察する問題で、各学力層で差がついた

結果分析

第1問の問2では、条例の制定などの地方公共団体の運営に関する具体的事例を、住民自治と団体自治という地方自治が持つ二つの側面で分類する問題でした。選択肢となっている事例は知識として受験生が記憶しているものではありませんが、それを概念に基づいて整理する力を問うたので、各学力層で差がついたと考えられます。

基礎的な事項であっても、共通テストでは視点を変えて出題されることが予想されます。初めてみる事例であっても、設問文を落ち着いて読み、問われていることを確実に学習事項と結び付けられるようにしておくことが大切です。

指導のご提案

共通テストでは、抽象的な概念を具体例で考察したり、逆に具体的な事例を抽象的に整理したりする問題の出題が予想されます。政治・経済の学習を進めるうえで、両方の観点からさまざまな事象の理解を深められるようにしておくことが大切です。

また、教科書を一通り終了し、問題演習を通して知識の定着・確認や、新しい設問形式への慣れを進められている時期だと思います。共通テストの問題が思考力を問うものへと変わっても、土台となる知識は必要です。模試や問題集で正解した問題であっても解答する際に曖昧な部分が残っていないか解説でしっかりと確認し、改めて教科書や資料集で知識を整理することが重要となります。